

多様な立場の人たちが出会い、共に未来をデザインする 恵那市での実践から



岐阜県恵那市役所 恵那市地域包括支援センター
精神保健福祉士 社会福祉士 足立 哲也

恵那市は
どんなまち？

■ 人口:50,200人 (平成31年3月31日現在)

□ 高齢者人口 17,097人

□ 高齢化率 34.05%

人口減少・高齢化が進んでいます

■ 日常生活圏域数 3圏域

■ 包括支援センター(直営)1カ所 市役所内

■ 認知症地域支援推進員

H24年に2人設置。H25年に2人、H28年に2人が修了。

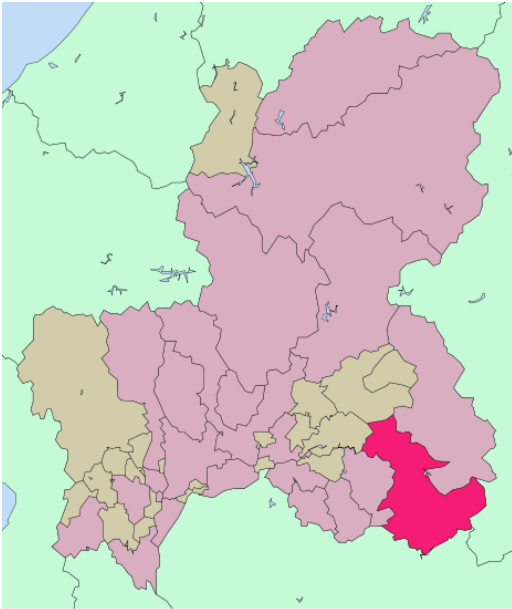
現在は私を含め、2人が地域包括支援センターで活動中。。

恵那市の概要(2)

恵那市は、名古屋市の中心部からおよそ60キロメートル、岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した山紫水明の豊かな自然に恵まれた地域です。

東には恵那山、北には笠置山に囲まれ、また山あいには木曽川や阿木川、矢作川などが流れ、四季折々の姿を楽しむことができます。

歴史的な観光資源としては、中心市街地を横断する中山道大井宿、南部には800年の歴史を持つ女城主の城下町の岩村町(昨年放送されたNHK連続テレビ小説 半分、青いの舞台)、レトロな雰囲気漂う日本大正村がある明智町があります。



50km

恵那市で行なう 認知症支援施策

- 認知症の人と家族のつどい
- 認知症サポーターの養成・認知症ケア人材の養成
- 認知症予防
- 認知症の早期発見
- 若年性認知症に対する支援、市民への啓発
- 認知症の人を支援する関係者の連携強化
- 徘徊高齢者位置探索端末機の貸付
- 認知症カフェ
- 回想法事業
- 認知症支援多職種連携事業
- 認知症ケアパスの活用
- 認知症初期集中支援チームの推進
- 認知症地域支援推進員の事業の充実

(第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画(2018～2020年度)より)

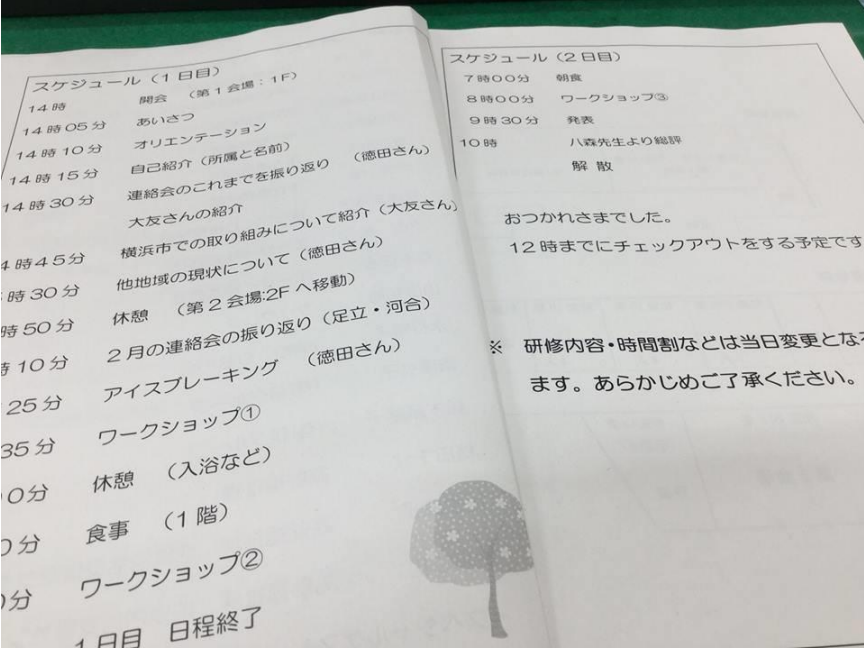
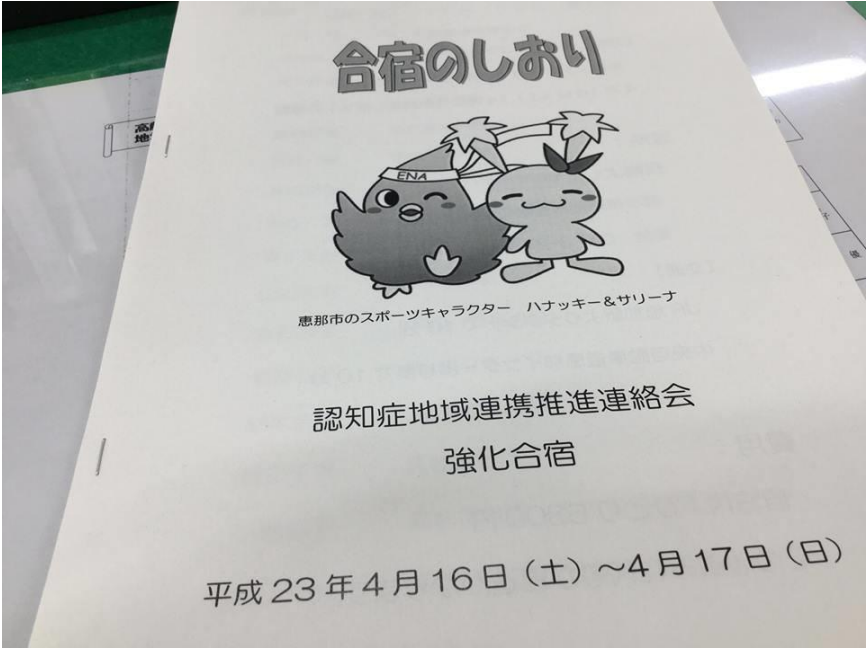
- … 赤字 認知症地域支援推進員が主となって行っている事業
- … ■ 本日、報告する内容(主に人と人をつなぐ事業)に関すること

市から求められている 推進員の役割について

- 1) 認知症の人と医療機関・介護サービス・地域の支援機関をつなぐ
コーディネーターの役割
- 2) 認知症本人と家族が参加できる事業の開催

多職種・多業種協働による
新しい社会資源・ネットワークづくり

平成23年4月に(強化)合宿を実施。(市内の民宿にて)



合宿から生まれたアイデアたち(その1)

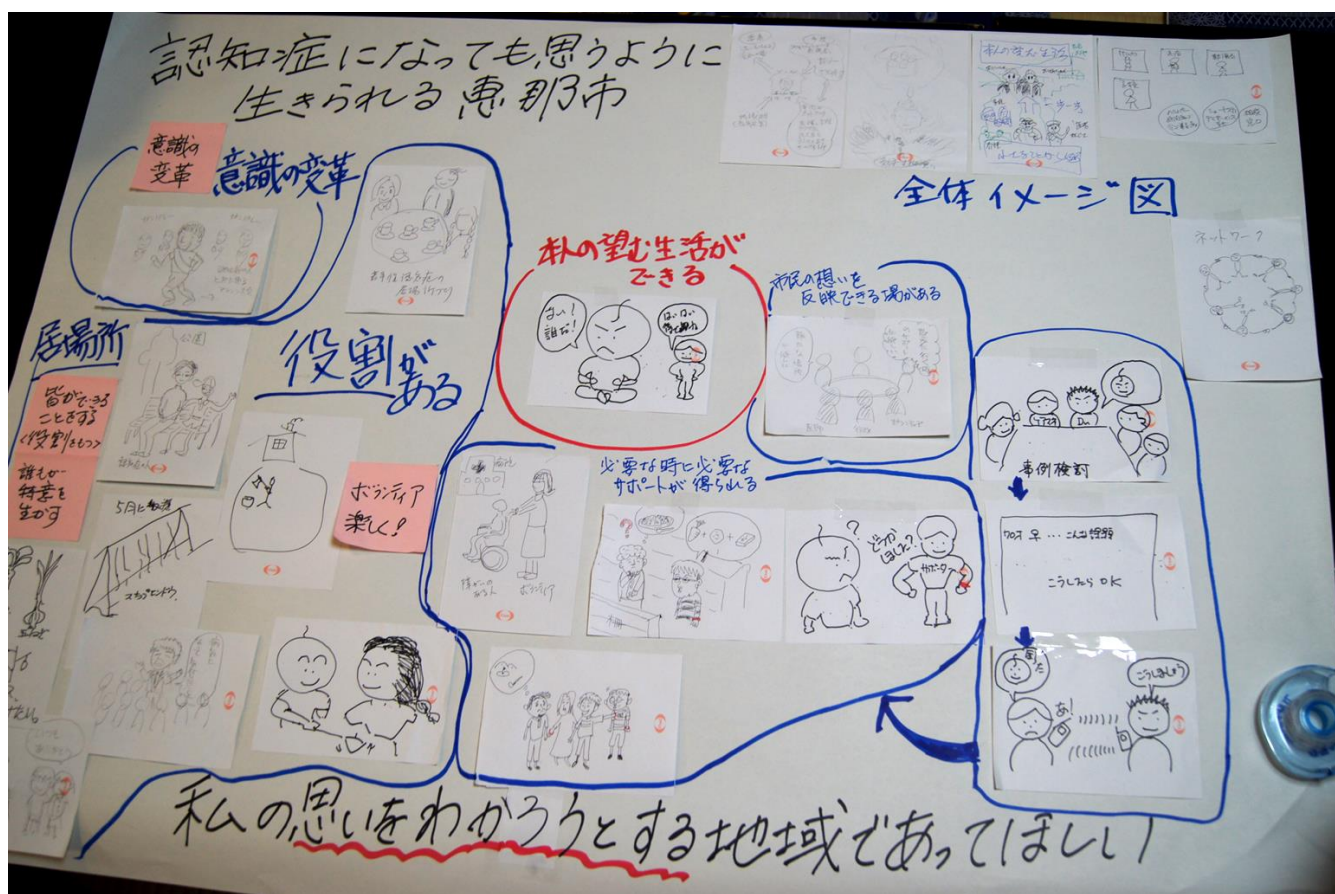
□認知症になっても安心して外出できる喫茶店・カフェの発想。



合宿から生まれたアイデアたち(その2)

居場所・役割⇒本人が望む生活ができる。

- マラソンを通じた、市民の意識の改革。
- 関係者同士の事例検討会の定着。



認知症地域支援推進員としての 活動報告

【ささゆりカフェをはじめのきっかけ】

◎大事にしたいこと

『市民に広く知ってもらえて、親しみのあるカフェづくり』

そのための課題

- ①これまでやっている市主催の家族のつどい・病院の家族会との明確な違い
インスタントコーヒーやペットボトルの提供でもよいが、誰でも楽しめる雰囲気をつくりたい
- ②喫茶店などスペースを借りるにしても財源がない
- ③これまでたくさんの事業を企画してきたが、どれだけ広報しても知ってもらえる対象は限定的。

企画当初の私のイメージ

地 域

地域に溶け込むことで、地域の人たちも「**ジブンゴト**」として捉える
これまで出て来られなかった人の外出と出会いの機会に

カフェを作るうえで、イメージしたのは「地域生活支援センター」。
「**誰でも通える場**」として、精神保健福祉士が常駐し、カフェが一体となったリラックスした環境でカウンター越しにあらゆる悩みや地域交流活動のサポートを行っている姿を、認知症のご本人や家族にも落とし込めないか。と考えた（足立）

ささゆりカフェ

職場・法人等の垣根を超えたつながり
「**多職種連携ネットワーク**」

市内を中心とした医療・福祉施設の専門職

民間企業
CSR

「**共に考える・共につくる**」地域社会の一員。
コーヒー・お菓子、ホスピタリティ、装花・場所の提供



平成25年9月

仲間と共に
スターバックスコーヒー店舗へ
企画を持ち込む



初回開催時の様子（市立恵那病院内喫茶店にて）





入り口に「認知症サポーターがいます」ステッカーが貼付



スーパーの多目的広場・企業（住宅展示場）の大ホール



「ひらめき」・「行動」・「遊び心」



開業医(認知症サポート医)

スターバックスコーヒージャパン
恵那峡SA店のパートナー

地域包括支援センター
精神保健福祉士

研修医

MSW

ケアマネジャー

認知症認定看護師

地域包括支援センター
社会福祉士

福祉大学の学生

研修医

ケアマネジャー

認知症サポーター

独立型社会福祉士

不動産屋





「いつもお世話になっているから店舗に出かけてみよう」



葬儀業者が毎回参加。
テーブルを彩る装花を提供

恵那市が主催する認知症カフェ事業

- ・市内の医療福祉の専門職と
地域社会貢献事業を大切にする
民間企業とのパートナーシップによる運営

- ・移動型：たくさんの人達に知ってほしい。
参加してほしい



コーヒー専門店と冠婚葬祭業と共に取り組む



恵那市中央図書館にて



上矢作町：圓頂寺にて

みんなの「やりたい！」「やってみたい！」を応援する



結婚式場のホワイエにて

会場提供者の想いや課題を一緒に考え企画に取り込むことで 一方通行の関係では無く、関係に継続性が生まれる



認知症をきっかけに外出機会が減ったり友人との交流が減ってしまった人に
旅行気分を味わってほしい(サービスエリア)



多くの人に、素晴らしい本と出会って欲しいと
いう図書館の想いと。
⇒認知症に優しい書籍のブックリスト作成

ささゆりカフェの開催を通じて



認知症について

「深く考えたことがなかった」「関心がなかった」

人たちとどうしたら、つながることができるか



そして、どうしたら「認知症」について、

「ジブンゴト」として考えてもらえるだろうか？

ささゆりカフェは、移動型認知症カフェ

場所探しを通じて認知症の事を知るきっかけが生まれたり、
認知症と共に歩む本人の居場所が地域に増える事を目指す

【「走る」ことをきっかけに新しい出会いとつながりを深める】

- 平成26年10月5日(日)実行委員会を立ち上げて、RUN伴を実施。(恵那～名古屋)
- 平成27年度は、より地域に密着した内容にするために、RUN伴PLUSに切り替え
- 平成28年度・29年度・30年度も、「えなRUN伴PLUS」として開催。
いつも親身になって一緒に行動してくれる地元の企業の会長が実行委員長をつとめ、
新しいステークホルダーに広がっていく。
(H28年度から市は後援に。市民主体でジブンゴトとしてまちを動かす)
人口5万人規模の恵那市で、800人～1,000人規模の市民が参加する。



⇒⇒⇒恵那でRUN伴を実施するきっかけ

1年前・・・【認知症の人 本人による講演会の開催】(平成25年12月)



静岡県富士宮市在住
佐野光孝さんと妻の明美さん

インタビュアーは、
富士宮市役所の稲垣康次さん





富士宮市の担当者と
事前打ち合わせを行う中で、恵
那市出身で富士宮市内グルー
プホームで暮らす夏目佳明さ
んの存在を知る。
「故郷でも走りたい！」という想
いを聴く。

講演会の前(平成25年9月)には、佐野夫妻の暮らす富士宮市へ。
地域でどのように過ごされているのか、周囲にはどのようなサポーターが？？
富士宮市に渡り、**RUN伴2013**で一緒に走ったことで実際の様子を実感した。
⇒恵那市と富士宮市とのつながりのきっかけ・・・さらにつながりは深まり広がる



夏目さんの故郷周辺で働くスタッフたちが
夏目さんの同級生捜しに奔走する。

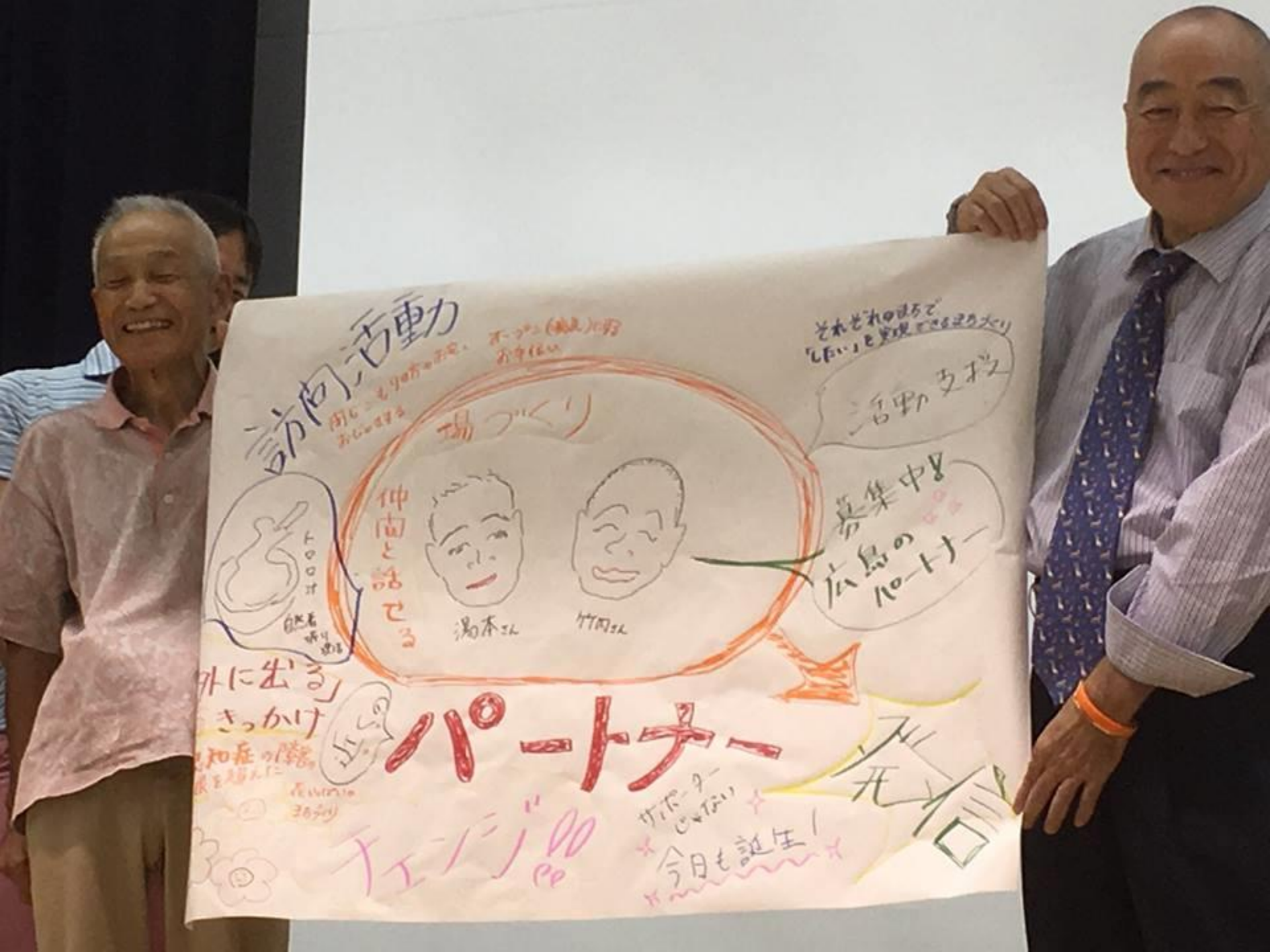
「あの人に会いたい」企画

推進員はとくに、呼びかけはしていません。
地域の人たちが、「応援したい」という
気持ちで自分たちで考えて動く。



フォーラムを開催して、対話の場を創出







公立病院内の多職種間で『病院として地域のためにできる事』を話し合う
国保上矢作病院(上矢作町)

認知症になっても、明るく笑顔で暮らせるまちへ

Dスマイルの 駄菓子 de カフェ

★好きな駄菓子を選んで、買える♪

★手作りケーキとドリンク付き♡

5月27日(土)
14時～16時

岩村コミュニティセンター
大ホール

参加費 100円

カフェ×駄菓子×認知症

★サイコロを振って、
認知症のことを知ろう!

認知症は治療できるの？
認知症の相談はどこへ
行けば良いの？
など...

**認知症や介護の
相談ができます。**

認知症は誰にでも訪れる病気です。
認知症になった時、人生を楽しむこと
を諦めずに済むように、地域が変わっ
ていくことを目指して開催しています。

運営
主催
協力

D-smile
NPOくわのみ (0573-43-0148)
介護まちなか相談所・いわむらの憩
こころの丘・国保上矢作病院
中京学院大学 看護学部

※予約不要。誰でも参加できます。

朝日新聞厚生文化事業団助成事業

同じ地区の複数の福祉事業者と住民が協力して
認知症カフェを立ち上げ(H29.4～)
Dスマイルカフェ (岩村町)



いろいろな立場の人たちで対話をする



自らの想いを語る場から次の一歩へ

「認知症の人にやさしいまちって**誰が**つくるんだろう？」



認知症と共に歩む本人の声から「暮らしづらさ」について考える
暮らしを形づくる「様々な立場の人」達と一緒に
「まちのあり方」を考えて、アクションに結びつける

カフェ・RUN伴PLUS・フォーラムなどを通じて生まれた 1つひとつのグッドストーリーの共有



大切なことは「対話」の時間がもてること
認知症の方どうしのつながりが生まれたり
家族の方の出会い交流が生まれたり
普段の介護サービス利用時には見られない表情も・・・
実は地域で生まれている1つひとつのグッドストーリーを共有すること

課題とこれからの展開

居場所というモノは、本来もっと身近なところにあるべきではないか？

たった年8回開催のカフェで全てをカバーできるものではない

ささゆりカフェ、RUN伴PLUS、フォーラムなどをきっかけとした新たな繋がりから、別の場所出会ったり。

自分自身が行きつけだった喫茶店で馴染みのマスターや常連客と笑って過ごすような当たり前の姿が広がっていくべき。

一方的な「**お願いごと**」からの脱却は、働きかける立場の者がそのコミュニティに同じ市民という立場で溶け込むことが前提では？

発表者自らが朝5時半に喫茶店に。常連になってたわいもない話をして過ごす。

⇒いつまでも通える自分の居場所に



今後の活動と 取組みの方向性について

『旅からはじまる市町を超えた友情プロジェクト』(H30.12)を実施

市町を超えた認知症地域支援推進員や前推進員等の連携による合同プロジェクト

- ・岐阜県恵那市
- ・和歌山県御坊市
- ・福岡県みやこ町
- ・大分県由布市

【プロジェクト内容】

- 各地の推進員などが地域の認知症と共に歩むご本人の旅のパートナーに
- 大分県由布市への旅行をキッカケとした出会いをお手伝い

【解決したい課題】

「認知症をきっかけとして、外出が減少したり自分の生きがいをあきらめたり、
長い人生の中で自ら作り上げてきた人間関係を失ってしまったり・・・」

⇒『認知症であっても自分が自分らしく生きていけるような仲間作りの場に』

- ・自らが旅行を企画！ ⇒ 『やりたい！』を応援する
- ・受け入れ先でのおもてなし（本人が本人を迎え入れる） ⇒ 『まちが動く！』
- ・全国に広がる友情へ
- ・「認知症にやさしいまち」についての再考に
- ・全国で悩みながら活動している推進員さんに、「推進員はおもしろい！」という元気を！

今後の活動と取組みの方向性について（おまけ）

『旅からはじまる市町を超えた友情プロジェクト』(H30.12)を実施



受け入れる側として自らリサーチ(由布市)



出かける側は、交通手段や行ってみたい場所などを提案して自ら作り上げていった（御坊市）



推進員仲間による
ZOOM会議を重ねて

認知症地域支援推進員として活動していくうえで、

【視点】

- ☐ 誰のためにやるのか？認知症の人や家族と共に活動していくには？
- ☐ どれだけ本人の声に耳を傾け、視点に立って考えていたか？
- ☐ 誰とやりたいのか？「お願いごと」からまちの人の「やりたい」に変化するには？
- ☐ どうやってビジョンの共有を図っていくのか？

おわりに

「認知症カフェ」・「RUN伴」・「フォーラム」は、開催することが最終目的ではない。

参加者それぞれがここを大切な場所であると感じて、
新たなコミュニティを作り上げ、新しい一歩を踏み出している姿が重要。

行政や民間などといった隔たりのない、まちの多くの人たちが集まり、
共に考えるきっかけを用意することも私達の使命。

□個人へのアプローチ

『認知症と共に歩む本人の声から考え、
応援したい一人ひとりの顔を思い浮かべることができるような働きかけ』

同時に

□地域へのアプローチ

『仲間の輪が強く大きく育っていく働きかけ』

⇒⇒ 地域共生へ



ご静聴ありがとうございました。